

文化・芸術

「花と在り香」シヨクダイ オオコンニャク(部分)

2020年、シルクオーガンジー、
針金、絞り染め、型染め、箔プリント
(撮影：木暮伸也)

寺村サチコ (1986年)

深紅のベールからなる華麗なテキスタイル作品ですが、モチーフになっているのは、シヨクダイオオコンニャクです。これはインドネシア・スマトラ島の熱帯雨林に自生する巨大な植物。2年に1度開花する時には、腐臭のような悪臭を放ち、その匂いで昆虫を集め花粉を媒介させるといいます。世界で最も臭い花として知られています。

昨年からのコロナ禍のなか、人々がマスクをすることを強いられていることから、マスクにおおわれた鼻―嗅覚に触発された作品です。もちろん作品が悪臭をはなつことはありませんが、そこには視覚によって嗅覚の記憶を呼び起こそうとする不穏な仕掛けがあります。

展示室をいっぱいにするほどの大がかりなインスタレーションながら、ディテールに目をこらせば、織や色彩にテキスタイルの繊細さの魅力も併せ持っています。

(田中)

《名画の扉》

大川美術館「桐生のアーティスト
2021 Kiryu POP」から

